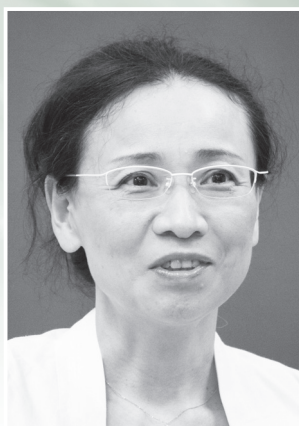


最近のインフルエンザの話題 —ワクチンと抗ウイルス薬—

(2015年6月20日(土) 於・東京)



羽田敦子

公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院
小児科小児感染症部門部長兼感染症科部長



佐藤晶論

福島県立医科大学医学部小児科学講座講師



【司会】

菅谷憲夫

神奈川県警友会けいゆう病院小児科・感染制御
慶應義塾大学医学部客員教授

(敬称略)

インフルエンザワクチンの現状と課題

菅谷(司会) 本日は羽田先生、佐藤先生とともに、インフルエンザワクチンと抗ウイルス薬の現状と展望について、海外の事情も含めて幅広く話し合ってみたいと思います。

ワクチンはインフルエンザ予防の基本ですが、高齢者施設などでは全職員、全入所者に接種しても、多くの死亡者が出ることがあります。特にA香港型に対する効果が低く、あまり効果がない年が続くと、誰もワクチン接種を受けなくなってしまうのではないかと危惧しています。佐藤先生は、ワクチンの効果についてどうお考えでしょうか。

佐藤 2000年以降、ワクチンの効果が低くなっている印象があります。小児の場合、ワクチン株と鶏卵からの抗原がマッチすれば50~60%くらいの免疫効果が期待できますが、マッチしなければやはり効果が出ません。

菅谷 佐藤先生の論文では、比較的高い効果が示されていた記憶があります。

佐藤 相馬市での小児のデータですね。6シーズンを通した予防効果は5割前後で、入院抑制効果も良好でした(表1)¹⁾。ただ小児の場合、子どもにワクチン接種を受けさせた保護者や、周りの大人たちも接種を受けていることが多いので、集団免疫効果の影響もあるかもしれません。

菅谷 なるほど。羽田先生はワクチンについてど